

参考資料

- 1 広瀬川創生プラン改定の検討過程
- 2 広瀬川に対する市民意識調査（概要）
- 3 広瀬川での活動団体へのアンケート調査（概要）
- 4 広瀬川創生プラン策定推進協議会委員名簿

参考資料1 広瀬川創生プラン改定の検討過程

1 会議等の開催状況

令和6年度から現行プラン(2015-2024)の改定作業に着手し、広瀬川創生プラン策定推進協議会(以下「協議会」という。)および広瀬川創生プラン改定検討ワーキンググループ(以下「WG」という。)で以下のとおり検討を行った。

(協議会開催状況及び検討内容)

	開催日	主な検討内容
第46回協議会	令和6年5月22日(水)	・プラン改定検討のためのWGの設置 ・WGメンバー5名の選出
第47回協議会	令和6年11月28日(木)	・広瀬川創生プラン2025-2034骨子(案)について
第48回協議会	令和7年3月27日(木)	・広瀬川創生プラン2025-2034(中間案)について
第49回協議会	令和7年7月10日(木)	・パブリックコメントの結果について ・広瀬川創生プラン2025-2034(最終稿)について

(WG開催状況及び検討内容)

	開催日	主な検討内容
第1回WG	令和6年7月4日(木)	・現行プランの振り返り ・次期プランの方向性(基本理念・基本目標) ・改定に当たっての検討内容(重点事業認定制度、推進体制) ・WGの今後の進め方
第2回WG	令和6年9月5日(木)	・基本理念・基本目標の確認について ・推進体制について ・重点事業認定の基本的な考え方について
第3回WG	令和6年10月31日(木)	・施策の方向について ・広瀬川創生プラン2025-2034骨子(案)について
第4回WG	令和7年1月29日(水)	・プランの推進状況の評価について ・広瀬川創生プラン2025-2034(中間案)について

2 プラン改定の主なポイント(検討結果)

(1) 現行プランの基本理念・基本目標の承継

プランは「広瀬川創生プラン素案づくり実行委員会」が主体となって作成(平成15年(2003年))した「広瀬川創生プラン素案 河水千年の夢ー広瀬川・悠久の流れとまちづくりー」を基に策定したものであり、今回の改定は同素案の理念上の計画期間(50年)の中での策定であることから、3つの基本理念及び理念に基づく5つの基本目標についての変更は行わず、今後ともそれらに基づく施策を推進していくこととした。

(2)活動団体同士の相互交流や連携、協力の更なる推進を目指した体制の構築

これまで活動団体同士の連携を促進してきた「広瀬川市民会議※」の再建に向けた取組みを継続し、広瀬川市民会議を含む広瀬川での活動団体の相互交流促進や、団体同士が連携・協力して共に活動していくためのネットワークづくりを目指す推進体制に変更することとした。

※ 広瀬川に関心を持つ市民や市民団体、NPO、企業などが気軽に参加できるネットワーク組織として、平成16年4月に設立された団体です。

(3)重点事業認定制度の拡充による小規模イベントの支援

少子高齢化や生活様式の多様化などの影響を受け、人材や人手不足等の理由から、活動団体が行うイベントの小規模化が進んでいる。このようなイベントを支援するため、大型イベントの視点に立った認定の基本的な考え方の一つである「波及効果の高さ」については、緩和および他の考え方と統合するほか、全体的にわかりやすい表現に改めた。

(4)現行プランの施策の方向を継承(一部、表現や実施内容の変更)

引き続き市民が広瀬川に親しみ、その魅力を感じる機会を創出するため、現行プランにおける11の施策の方向は継続しつつ、更なるプランの推進のため、「防災」や「学び」、「人材育成」などの視点を取り入れることとした。

(5)進行管理の見直しおよびプランの推進における評価の対象者等の明瞭化

計画期間ごとのPDCAサイクルによる評価の対象者(協議会及び仙台市)とその内容(支援等の実施状況)をより明瞭化した。また、1年ごとの取組状況の把握では、活動団体などの取組みを支援するため、フィードバックに関する記載を追加した。

1 調査の目的

広瀬川創生プラン改定に当たり、平成13年度、平成26年度に実施した市民意識調査結果との対比を行い、市民意識の変化の有無を調査することを目的に実施した。

2 調査対象及び回収数

(1) 調査対象: 仙台市内在住の20歳以上の方

(2) 回収状況: 発送数1,500サンプル、回収数447サンプル、回収率29.8%

※ 標本数の分配方法

- ・ 仙台市内の64中学校区を単位層とし、各層毎の母集団(令和6年5月1日現在の住民基本台帳に基づく人口)の大きさに基づき、まず1,018サンプルを比例配分した。
- ・ 次に、広瀬川流域の15中学校区については、各標本数が50となるように482サンプルを補充した。

3 調査方法 無記名式の質問用紙、郵送による配布・回収

4 調査実施期間 令和6年8月

5 報告書の見方

(1) 報告書中のNとは、その設問項目の回答者数または回答件数である。

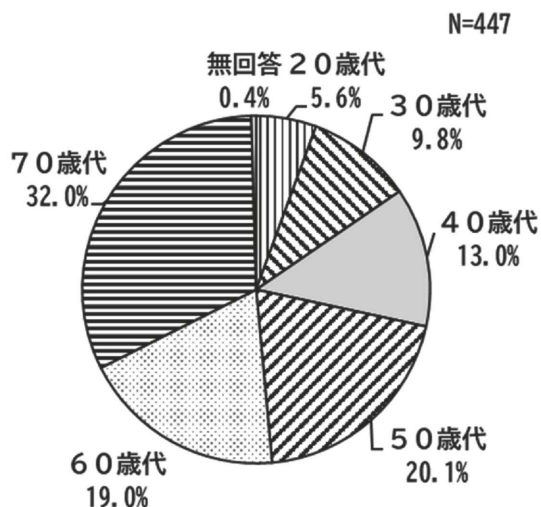
(2) %値は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記してある。したがって、必ずしも(単数回答の)合計が100.0%にならない場合がある。

(3) 回答者が2つ以上の回答をすることができる質問(複数回答)では、回答件数の合計は回答者数(100.0%)を超える場合がある。

■ 回答者の主なプロフィール

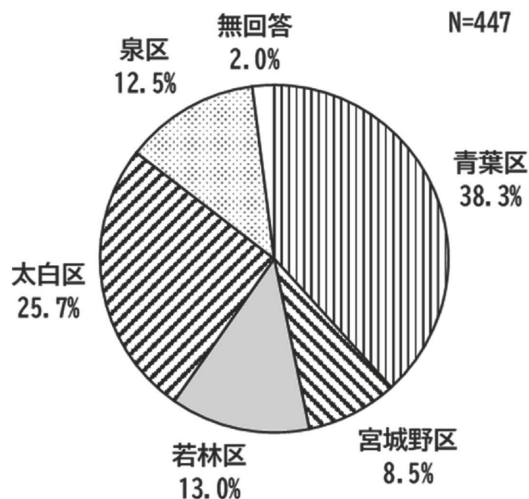
【年齢】

・20歳代	25人
・30歳代	44人
・40歳代	58人
・50歳代	90人
・60歳代	85人
・70歳以上	143人
・無回答	2人



【お住まいの区】

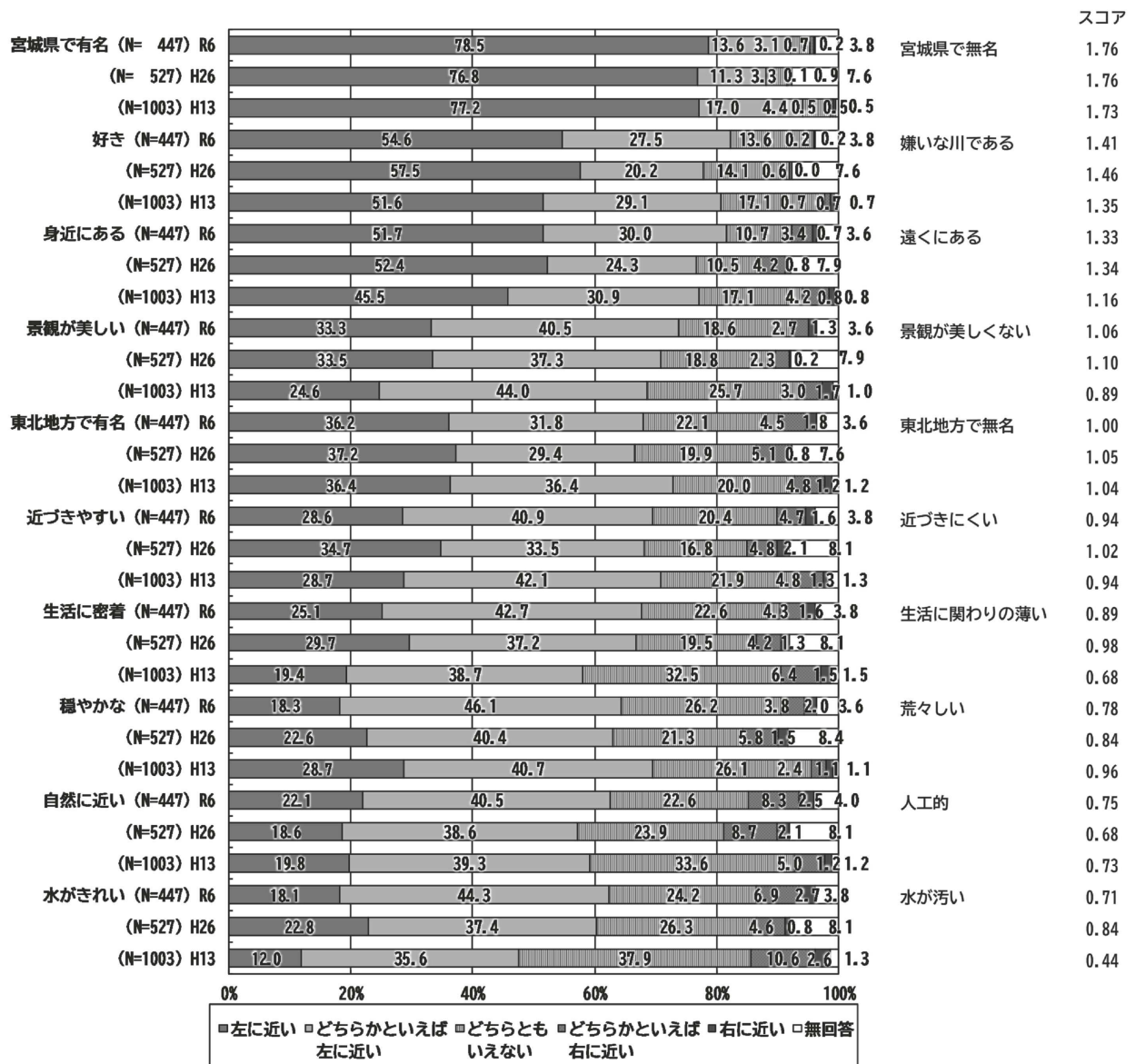
・青葉区	171人
・宮城野区	38人
・若林区	58人
・太白区	115人
・泉区	56人
・無回答	9人

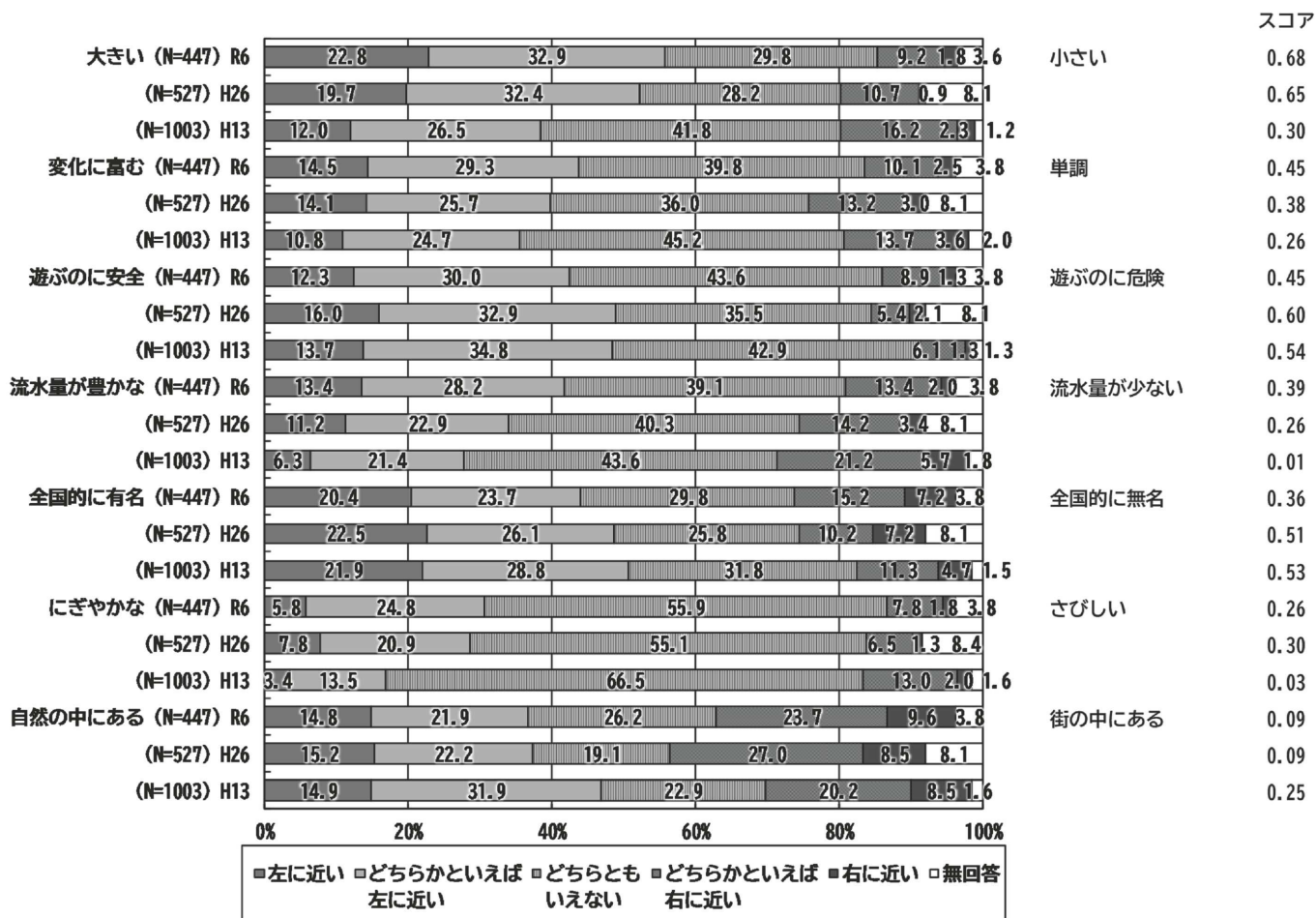


■集計結果

(1)「広瀬川」に対するイメージ

広瀬川に対する市民の持つイメージを把握するために、「好きな川である」と「嫌いな川である」のように対になったものから、広瀬川のイメージがどちらに強いかを質問した。回答者全体では「宮城県で有名」「好き」「身近にある」などのイメージが強い。

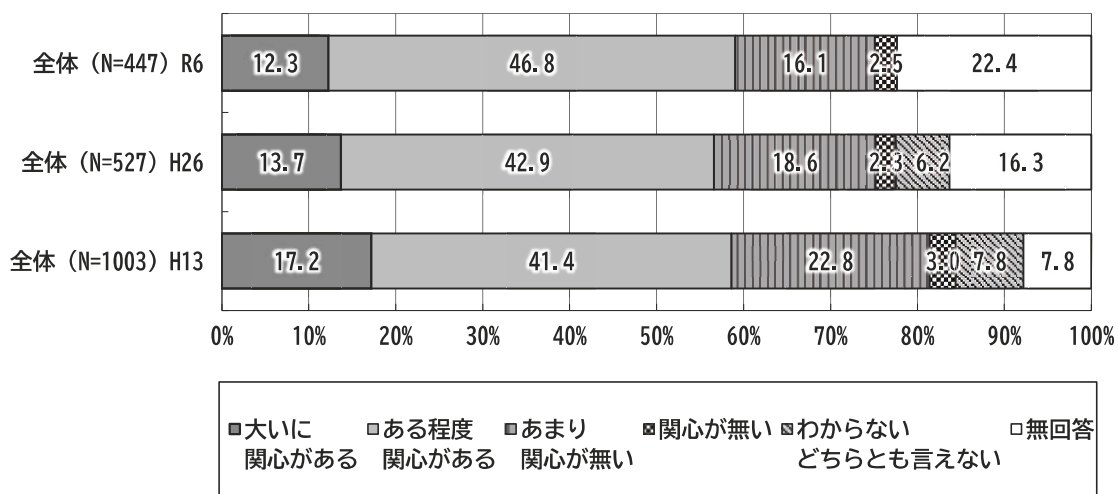




※グラフ中のスコアとは、各項目において、「左に近い」を2点、「どちらかといえば左に近い」を1点、「どちらとも言えない」を0点、「どちらかといえば右に近い」を-1点、「右に近い」を-2点と換算し、その平均点を示している。平均を算出する際の分母には、無回答は含まない。項目はスコアの降順に並び替えている。

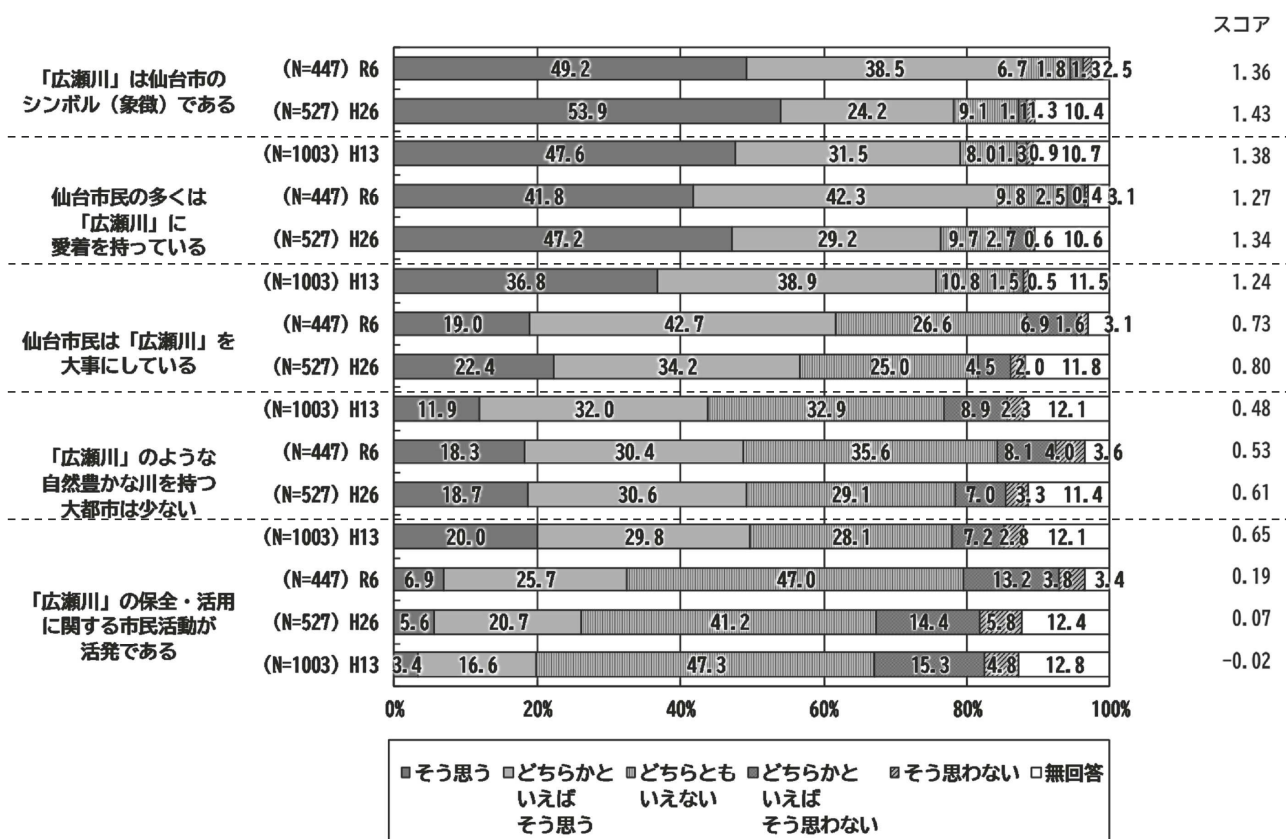
(2)「広瀬川」への関心度

「広瀬川」へどの程度関心をもっているかを質問した。回答者全体では、「ある程度関心がある」が46.8%、「大いに関心がある」が12.3%であり、全体の半数以上の人が広瀬川に関心をもっていることがわかる。



(3)「広瀬川」についての基本認識

広瀬川について5つの考え方(基本認識)を提示した上で、その考え方に対してどう思うかをたずねた。市民の多くが「広瀬川は仙台市のシンボル(象徴)である」「仙台市民の多くは「広瀬川」に愛着を持っている」という考えを持っていることがわかる。

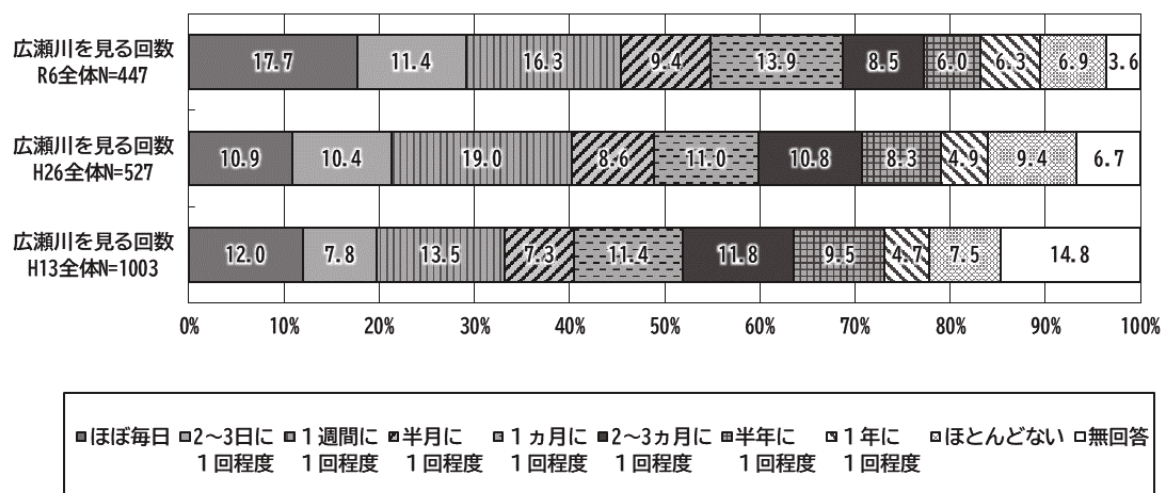


※グラフ中のスコアとは、各項目において、「そう思う」を2点、「どちらかといえばそう思う」を1点、「どちらとも言えない」を0点、「どちらかといえばそう思わない」を-1点、「そう思わない」を-2点と換算し、その平均点を示している。項目はスコアの降順に並び替えている。

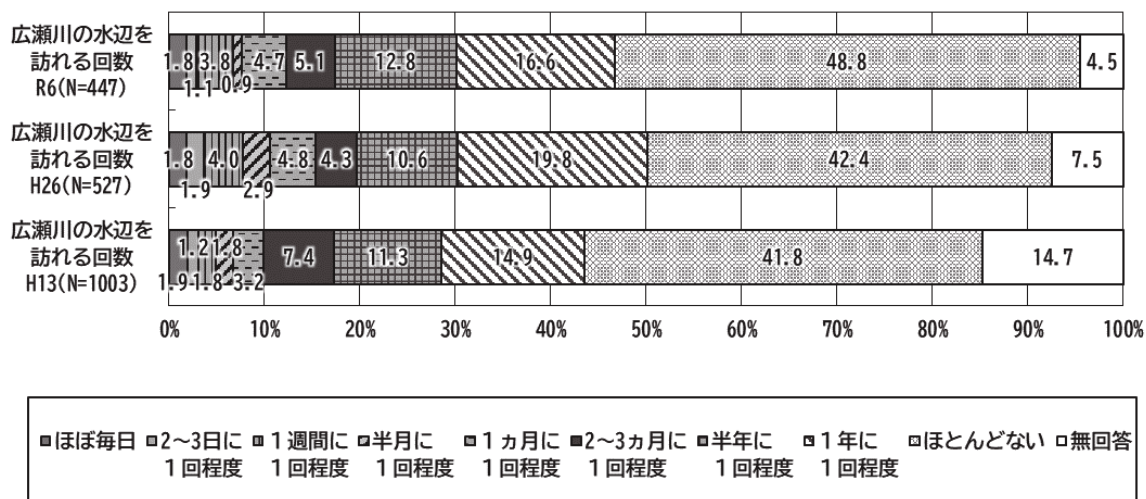
(4)「広瀬川」へのアクセス頻度

市民が広瀬川へ実際にどの程度アクセスしているかを把握するために、「広瀬川を見る回数」「広瀬川の水辺を訪れる回数」の2つの質問をした。広瀬川を見る回数についての回答は、「ほぼ毎日」から「ほとんどない」まで幅広く分布している。広瀬川の水辺を訪れる回数については、「ほとんどない」と回答している人が48.8%と最も多く、次いで「1年に1回程度」が16.6%となっている。

＜広瀬川を見る回数＞

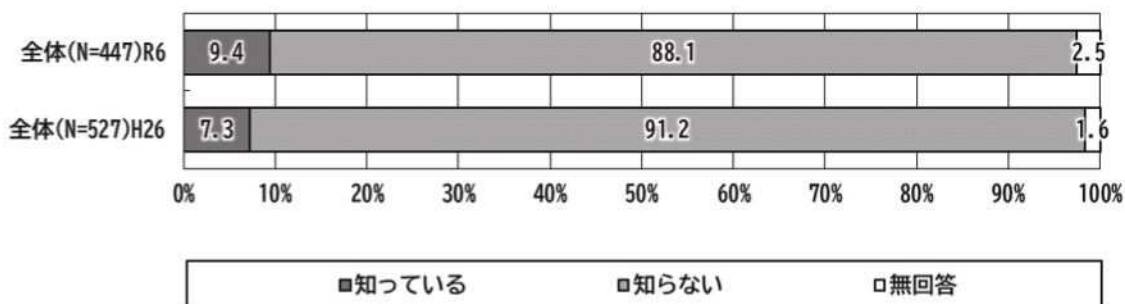


＜広瀬川の水辺を訪れる回数＞



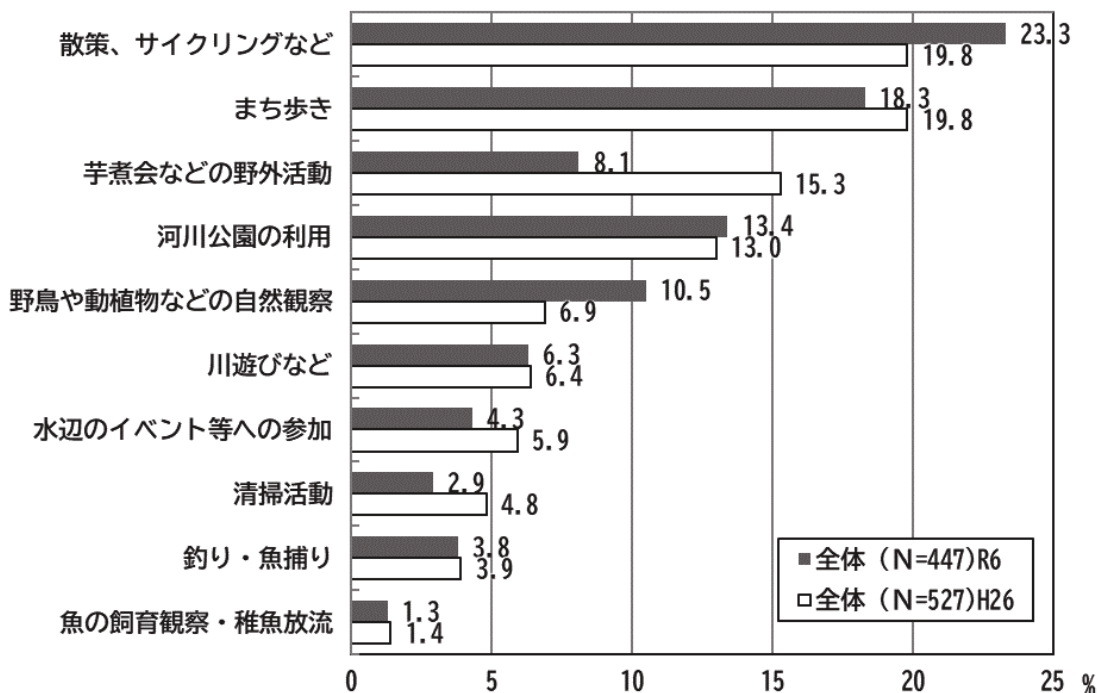
(5)「広瀬川創生プラン」の認知状況

市民に「広瀬川創生プラン」の認知状況を質問したところ、「知っている」が9.4%であった。



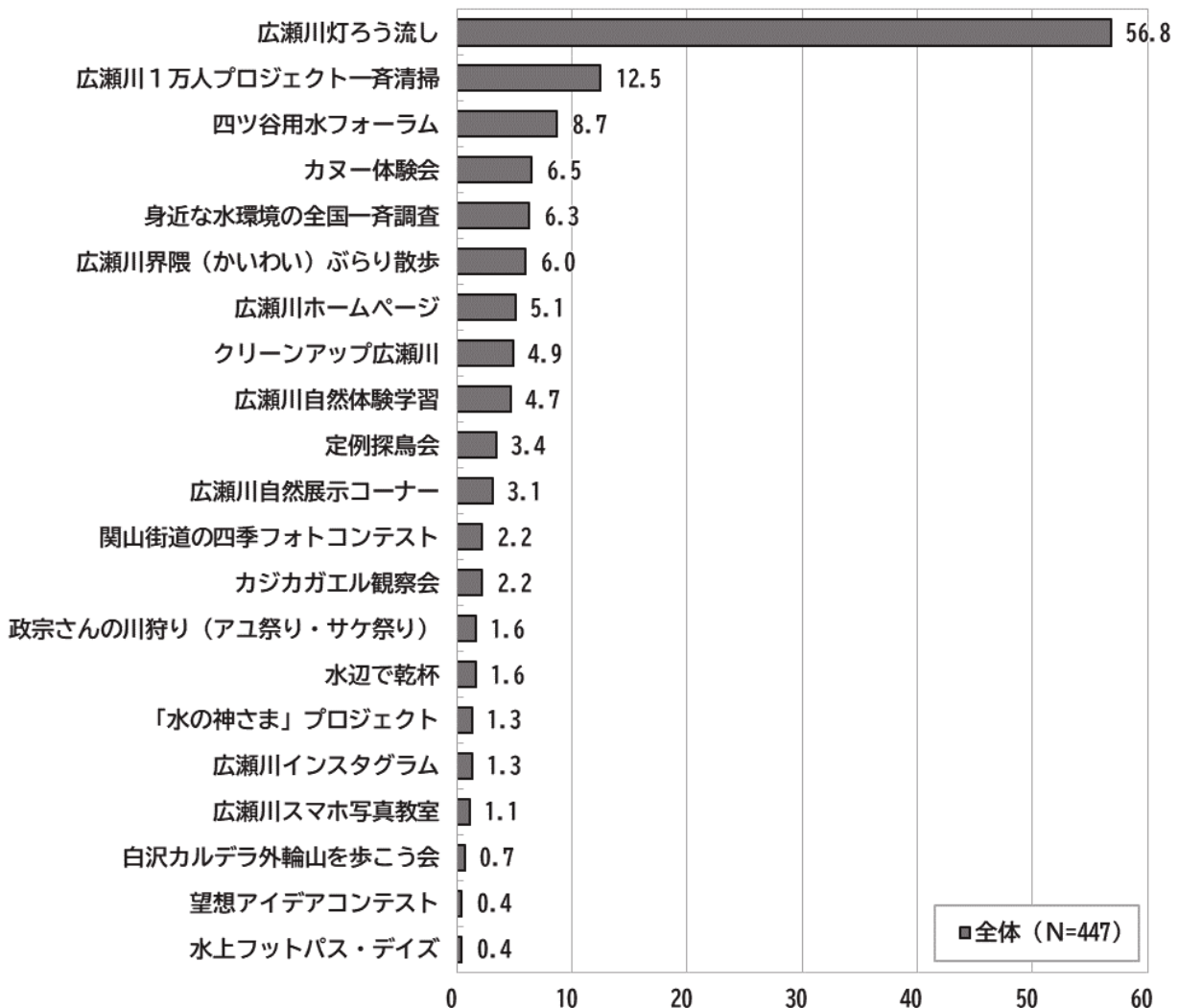
(6) 最近の「広瀬川」との関わりについて

市民がここ2～3年間で広瀬川に関連してどのようなことをしたかについて把握するための質問では、「散策、サイクリングなど」が23.3%、「まち歩き」が18.3%が続いている。



(7)「広瀬川」のイベントや取り組みの認知状況

広瀬川で行われている21の主なイベントや取り組みをあげて、認知状況を市民にたずねた。「広瀬川灯ろう流し」が最も多く、56.8%と半数の人が認知している。次いで「広瀬川1万人プロジェクト一斉清掃」が12.5%で続いている。



参考資料3 広瀬川での活動団体へのアンケート調査(概要)

- 1 調査の目的 : 広瀬川創生プランの改定にあたり、広瀬川で活動する団体の取組事業を実施する際の課題などについて把握するもの
- 2 調査対象 : 広瀬川で活動する団体(8団体)
- 3 調査方法 : 電子メールによる質問用紙の配布・回収
- 4 調査実施期間: 令和6年8月

・取組事業を実施する際の課題

事業実施の課題	活動団体からの主な意見
人手不足	■高齢化等により、事務局を担うスタッフのなり手が少なく取組みの実施が困難な場合がある ■若いスタッフがいないので困っている
周知・広報不足	■事務担当不足により周知、広報不足
他団体との連携不足	■取組みに対する温度差があり、連携が難しい ■他団体と連携したくても、そのための時間や労力を割くことが難しい

・事業実施のために必要性が高いと感じる協力・支援

必要性の高い協力・支援	活動団体からの主な意見
後援等の名義使用	■川沿いの官地の使用にあたり、市の後援事業となれば管理者から理解が得られやすい
場所の確保	■駐車場の確保
運営の人手確保	■行政や他の活動団体との連携・協力による相互の人手確保
事務手続きの補助	■スキルを持った、行政担当者や行政経験者等による行政手続きの補助

・重点事業認定制度

○重点事業認定制度の認知度について

知っている	知らない	無回答
2団体	5団体	1団体

○重点事業認定制度を利用した助成金の活用※について

活用したいと思う	活用したいと思わない	無回答
1団体	6団体	1団体

○「活用したいと思わない」と回答した主な理由

- 助成金をもらえるにしても、活動成果を求められるなら、そのために団体メンバーの大きな負担(人手他)になるようなら、市民活動として楽しく、持続可能な活動として取り組みなくなるため。
- 実行委員会にすることで合意形成に時間を要し、それにかかる事務局人件費がコストとして大きいため。
- 実際の運営に関しても、大部分は事務局が担うケースがほとんどであり、実働的な実行委員会にはならないため。

※助成金を受け取るためには、実行委員会などを立ち上げ、活動内容についての協議や活動終了後に協議会への活動報告が必要となる。

参考資料4

広瀬川創生プラン策定推進協議会委員名簿

第10期(令和6年4月1日～令和8年3月31日)

役職	氏名	役職又は団体名
	一井 利光	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所 流域治水課長
	岩崎 雄一郎	東北電力株式会社宮城支店 広報担当部長
	大場 秀行	広瀬川1万人プロジェクト実行委員会 副委員長
◎ 会長 代理	小田 隆史	東京大学大学院総合文化研究科 准教授 日本河川教育学会 理事
◎ 会長	小祝 慶紀	東北工業大学ライフデザイン学部 学部長
	今野 義則	仙台市片平市民センター 館長 (令和7年4月1日就任)
	西城 あや	一般社団法人個育てコーチング協会 代表理事
	佐々木 方明	仙台市片平市民センター・片平児童館 館長 (令和7年3月31日まで)
	笹村 欣司	ニッカウエスキー株式会社仙台工場 理事工場長
◎	佐藤 奈緒子	なおコンサルティング 代表
	多田 千佳	東北大学大学院農学研究科 准教授
	田名部 一郎	宮城県仙台土木事務所 河川部河川砂防第一班 技術主幹(班長)
◎	豊嶋 純一	特定非営利活動法人都市デザインワークス せんだいセントラルパーク縁長
◎	中嶋 紀世生	宮城大学研究推進・地域未来共創センター コーディネーター
	谷田貝 泰子	特定非営利活動法人水・環境ネット東北 事務局長
	山本 琴枝	仙台商工会議所女性会 常任委員

◎:広瀬川創生プラン改定検討ワーキンググループメンバー

(敬称略・五十音順)

広瀬川創生プラン

2025～2034

市民協働による川づくり,まちづくり行動計画
～ 悠久の流れ・広瀬川の新たな魅力の発見と創出をめざして ～

令和7年7月

編集・発行 仙台市 建設局 百年の杜推進部 百年の杜推進課

〒980-8671 仙台市青葉区国分町3丁目7番1号

TEL:022-214-8327 FAX:022-216-0637

広瀬川ホームページ/<https://www.hirosegawa-net.com/>



広瀬川 創生プラン

2025▶▶▶2034